

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成					
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。					
本年度重点目標	○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。 ○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。 ○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A C	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
	(成果と課題) ○外部講師を招へいしての研修や、週に1回程度、校長の参観授業を設定したことで、授業改善に向けて意欲的に取り組むことができた。 ○数多くの研究授業を実施したことで、めあてとまとめの連動、そして振り返りの研修を進めることができた。 ●読書についての評価はまだ高くないが、委員会を中心とした全体的な取組で効果は上がっている。					
	(改善策等) ◇各学級で、読書ビンゴや本を紹介する時間を取り入れるなど、読書活動の意欲化を図るとともに家庭への啓発を強化する。 ◇教師が読書を楽しむ姿を見せるなどして、朝読書の時間の充実を図る。 ◇日々の学習の内容や個々の理解度などを保護者に伝え、授業につながる児童の実態に合った家庭学習を課すことで、保護者の協力を得る。 ◇ESDカレンダーの実効性のある活用をするともに、スピーチや自主学習のテーマの中に地域やふるさとを取り入れたり、先を見越して地域に活動を知らせ、学校運営協議会委員やCS協力員との交流の機会を増やしたりすることで、地域との繋がりを深くする。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・教師アンケート ・児童アンケート	A B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・教師アンケート ・児童アンケート	A B		

(成果と課題)
<ul style="list-style-type: none"> ○校長が提唱する和の雰囲気が児童に浸透し、学年を問わず仲良く楽しく学校生活を送っている。 ○本年度から、不登校について組織的に対応するようにしている。組織的な活動には至っていないが、情報を共有したりケース会議を積極的に開いたりするなど、効果を上げている。 ○保護者からの情報提供などから、いじめを早期に見えてきている。 ●規範意識の高まりがみられる場面が増えてきたが、教師の見ている範囲に限られるなど、内発的ではない。 ●自己肯定感を上げるために、様々な側面からアプローチして成果は表れているが、自分に否定的な児童の改善が少ない。
(改善策等)
<ul style="list-style-type: none"> ◇いじめが起こらないために、友人関係に課題がある場合は、関係教職員ですぐにケース会議を実施し、情報を共有した上で慎重に対応する。 ◇不登校傾向の児童が徐々に増えてきているので、定期的に行っている教育相談の時間をしっかり確保するとともに、多くの教職員と話せる機会を与えることで、居場所づくりに努める。また、教師が子どもと関わり、遊ぶ時間を設ける。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革に努めた。</u>	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	② 働きやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、<u>教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。</u> 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。 	・教師アンケート ・教師アンケート	B B	B B
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	<u>「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。</u>	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務の時間が長い教職員もいるが、平均するとかなりの改善傾向が見られる。 ○和の雰囲気で満たされ、良好な人間関係を維持することができた。 ●課外活動については、時間を短縮したり活動のない日を設定するなどしたが、一部の教職員に負担が掛かっている。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇スクールサポートスタッフの公平で有効な活用を推進することで、業務改善に努める。 ◇自動音声応答装置に関する啓発に努めることと、時間外勤務の多い教職員に積極的に声を掛ける。 ◇超過勤務につながる活動を洗い出し、思い切った精選を行う。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員に対して、<u>学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。</u> 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、<u>地域の力を学校運営に生かすよう努めた。</u> 	・教師アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A A	A
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
	③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会で、学校の情報を多く発信し、教育活動に関する熟議を行い、様々なアイデアを集めることができた。 ○CS協力員制度を立ち上げ、地域の力を学校の教育活動に活用することができた。 ○ホームページによる児童の学校生活の発信を続けたことにより、ホームページに関心を持つ家庭が増え、家庭や地域への情報伝達がスムーズになった。 ●CS協力員については、まだまだ人数が少なく、認知度も低いため、必要な人数を確保することが難しかった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校運営協議会委員やCS協力員とより連携を図るため、学校行事に参加を呼び掛けたり、直接児童と接する機会を設ける。 ◇学校運営協議会については、参観日やクラブ活動、遠足などと関連させ、勤務時間内に会を開催する。 ◇保護者に向けて、CS協力員の活動を発信し、気軽に学校に来ることができる雰囲気を醸成する。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満